

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：健康・スポーツ科学

部会長名：武井義明

作成者名：武井義明

概要（2000字）

【授業の概要について】

健康・スポーツ科学部会は、人間発達環境学研究科 19 名、海事科学研究科 2 名および保健学研究科 2 名、合計 23 名から構成している。健康・スポーツ科学部会では、「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」、「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」、「健康・スポーツ科学講義」の科目を開設している。これらの科目を通して健康・スポーツ科学では、身体と健康に関するすべての学問を学際的な視野のもとで総合化し、健康で豊かな生活の実践と能力の開発に関する知識を学ぶことを目標にしている。

健康・スポーツ科学実習では、健康科学、スポーツ科学および生涯スポーツの 3 分野を柱にしたカリキュラム構成になっている。「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」では、健康を見直す健康科学および運動のスキルを科学的な視点から身につけるスポーツ科学を学習する。「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」では、生涯にわたるスポーツ実践と健康習慣の習得を目的に、各種のスポーツ実技を実習するとともにスポーツ種目の文化的側面の理解と、ルールと戦術を学び、自らがゲームを実践できる能力を学習する。「健康科学講義」では、健康科学とスポーツ科学の入門編として人間の健康行動と健康増進に関する科学的知識を身につけ、健康・スポーツの科学的基礎を習得する。

健康・スポーツ科学実習Ⅰでは、全学共通授業科目として学部を中心としたブロックにより（一部複数学部から構成）、前期の月曜日から木曜日までの 13 枠を開講している。健康・スポーツ科学実習Ⅱは、後期の月曜日から木曜日の 4 日間において、健康・スポーツ科学実習Ⅰと同じように学部（一部複数学部から構成）を中心にしたブロックにより、9 枠を開講している。実習Ⅰ・Ⅱにおいては、教育効果、安全性の確保、教場の条件などから、最大限 1 クラス 40 名を限度にしている。専任教員と非常勤講師とも開設授業の理念・シラバス・評価等について共通の観点を持つために、健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱの資料を作成し、専門性を活かしながら効果的な実習を展開している。また、第 1 回目の授業のガイダンスで、ガイダンス資料をもとに本授業の目的、授業の目標、成績評価などを学生に周知している。

健康・スポーツ科学講義は、前期 3 枠、後期 3 枠を開講し、8 名の講義担当教員が生活習慣病、生活機能病、健康に関わる様々な行動（喫煙行動、飲酒・薬物乱用行動、性行動など）、メンタルヘルス、母子保健、環境保健などテーマ別に開講している。また、講義担当者を中心に教科書を執筆し、それをもとに共通の内容が提供できるように工夫している。さらに、保健管理センターの教員との連携でエイズ教育に関する内容も提供し、この分野に関する啓蒙を実施してきている。

【今年度工夫した点】

3 月 26 日(月)に昨年に引き続き、平成 24 年度神戸大学全学共通教育健康・スポーツ科学実習オリエンテーション兼 FD 研修会を開催した。出席者は田中康秀機構長、大野隆部長、専任 8 名、非常勤 8 名および事務補佐員の計 19 名であった。田中康秀機構長および大野隆部長より神戸大学の教育理念および共通教育の理念についての講演をいただいた。部会長より神戸大学における健康・スポーツ科学の理念について講演があった。次期部会長より健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料に沿って、実施についての説明があった。特に体力測定についての厳格な実施の方針が打ち出された。質疑応答において神戸大学の教育憲章の中に健康・スポーツ科学の教育理念に係る文言があ

るべきではないかとの意見が出された。その後、FD 研修会として大阪工業大の木内敦詞准教授より「行動科学に基づく大学新入生の健康づくり介入研究：project FYPE」と題する講演いただいた。

【改善しようと努めた点】

学生更衣室や体育館玄関，そしてトイレの丁寧な使用維持。また，盗難防止のための貴重品ロッカーを体育館玄関付近に3台，屋外の男女更衣室にそれぞれ1台ずつ設置した。

【優れていると思われる点】

今年度は文部科学省からの依頼で体力測定を実施した。各時間で教員同士で協力し合いながら実施し，結果を文部科学省に報告できた。

【改善すべき点】

諸施設の老朽化で修理を要する個所が年々増えている。次年度の予算でテニスコート6面のうち3面の改修費用が認められたが，残りの3面についても改修する必要がある。

様式2（続き）

### 項目・観点ごとの記述

#### 基準5 教育内容及び方法

5-1-②： 授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

（観点到に係る状況）

実習においては，学生自らが積極的に授業に取り組み，自らの健康維持増進に成果が上がっているかは，すべての学生に配布し，授業の中で実際に取り組み内容が含まれている。そして，そのせいか，結果は記録し，事後の反省材料として保存している。また，講義においては教科集団編集による教科書を使用している。

根拠資料

実習ノート，雨天時等で授業ができない場合には教室内で座学するプリント，DVD教材等。基礎としての健康科学 / 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 健康科学研究会編：大修館書店，2007，ISBN:978-4-469-26630-6

5-1-③： 授業の内容が，全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

（観点到に係る状況）

学生評価アンケートを参考にして各教員は実施している。また，一部の教員は独自でアンケートを作成して簡単な学生評価を受けている。

根拠資料

学生評価アンケート，個人のアンケートは割愛。

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

実技の授業では授業開始時間に出席を厳格にとり，遅刻や早退についても独自の尺度で学生に対応し，厳正な評価を行っている。

根拠資料

健康・スポーツ科学実習のシラバスと学生への説明。

5-2-①： 教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，多様なメディアを高度に利用した授業，情報機器の活用，TAの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）

講義に関しては共通教育の目指す少人数教育の実現にむけて実施している。実技は教員一名に対して40名を限度として受講しているが，入学者人数が増えたために40名枠を超えてしまうケースも出てきて，各学部への定員数の厳守をお願いする。本年度予算によって体力測定機器が設置された。次年度より体力測定における活用が期待される。

根拠資料

TA 任用計画。実習ノート。授業時の配布資料，記録紙）

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

実技授業時には家庭でもできる内容の筋力運動を展開することで，課外活動内や，自宅での休日に実践できるように指導している。

根拠資料

実習ノートには簡単な測定方法。簡単な柔軟運動方法が紹介されている。

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

ガイダンス時において説明しており，重要な教員同士のコンセンサスも十分である。

根拠資料

ガイダンス資料。

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

個々の教員レベルで工夫をこらしている。カロリーカウンターを新規に新製品で購入し，自己レベルでの実施と評価を行っている。

根拠資料

実習ノート

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

事務補佐員が常駐しているので，急を要する場合等はその方を通じて連絡を受け，さまざまな質問等に対応できるようになっている。

根拠資料

ガイダンス資料。学生授業評価。アンケート調査。